

H23. 5. 28

# 世界がたたえたのは東北人



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 内長尾和宏(ながお・かずひろ)東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。52歳。ブログ (http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/) が好評。

前回書いた二重ローン問題の続きです。ローンで購入したマイホームに一晚住んだだけで津波に流された方が実際にいます。現在もローンの請求は届きます。彼にはあと30年間、請求が来ます。家族を失い、家を失い、職場を失い、職を失った彼は立ち直れるでしょうか。住むところもない、仕事もない中、どうすれば生きていけるでしょうか。

車のローンもあり、要介護の親も子供もいます。親から受ければいいのでしょうか。私は、彼に自立可能なところまで戻してあげるのが国の

## 国は個別に調査し「徳政令」を！

ん的生活状況、時には家庭状況や経済状況まで診ようとする習性が身につけています。今回の視診、触診、問診で徳政令の必要性を痛感。町医者とは人の痛みを感じる仕事。すべての診断・治療は「痛みを感じる」ことから始まり

「後期高齢者」という言葉はあるのだろうか、と思ったりです。原発40km圏内でパラボラに避難を余儀なくされている人々はどなたも実に立派でした。そんな世界に誇る「東北魂」を絶えさせないためにも、日本中から継続的な支援が必要です。

「津波」と「原発」。津波処理はアリの作業のようではありませんが、復旧作業が進んでいます。一方、「原発処理」は「先が見えない不安」によるストレスが増す一方。岩手、宮城はもちろんですが、福島にも支援の手を緩めてはいけません。被爆国・日本が、皮肉にも自ら造った原発と闘う運命になりました。長い戦いは、まだ始まったばかりです。



東日本大震災特集⑤

役割だと考えます。土台を作ったあけるのです。国の負担で弁護士や税理士が個別相談に入り、個々の経済状況を調べ、ある線を定め、一生かかっても支払えない負債を国費で帳消しにしてあげれば良い。

徳政令です。徳政令をある一定の条件を満たす被災者に実施してほしい。生活保護と同じじゃないか、という意見もあるでしょう。私は全く違うと思います。人間を診る町医者は患者さ

いと意思です。道路や港湾の整備などインフラ整備と並行して「個人救済」が急がれます。東北人は想像以上に我慢強かった。世界は日本人を絶賛したではありません。東北人をたたえたのです。80代後半になっても漁や畑で働いて

相馬市長籠城宣言 3月下旬、放射能への恐怖から南相馬市、相馬市では住民の脱出が始まった。立谷秀清相馬市長は「国から避難指示のない現段階で、市民とともに相馬市を離れるつもりは毛頭ない」と籠城宣言をした。

ひょうご